

53. 豚精液液状保存法の検討

福島県畜産試験場 肉畜部・平成11年度福島県畜産試験場試験成績概要

- 1 部 門 名 畜産－豚－繁殖 分類コード07-03-38000000
- 2 担 当 者 石川雄治・菅野美樹夫・網中 潤・門屋義勝・岡崎充成
- 3 要 旨

豚の人工授精(AI)技術は改良及び防疫上重要である。しかし、現状では一定の繁殖成績を上げるためには液状精液の中温(15℃)保存が良いとされているが、温度管理が難しく普及が遅れている。そこで温度管理が容易な5℃保存でも精子の活力が落ちない希釈液を開発した。

供試精液としてランドレース種系統造成豚「フクシマル」雄およびデュロック種系系統造成豚「サクラ203」雄延べ9頭の精液を用い、試験区には「モデナ+0.1%グリシン+0.6%タウリン+0.6%PVP (Polyvinylpyrrolidone)+0.1%システイン酸」を希釈液とし、対照区(C区)には中温保存用希釈液「モデナ」を用いた。希釈精液は、3日間及び7日間保存し、豚凍結精液利用技術マニュアルにより活力を比較検討した。更に試験区については、AI試験を行った。精液の活力は試験区で3日目が50+++～70+++、7日目が30+++～50+++であり、対照区の20+++～60+++、20+++～50+++よりも良好であった。またこれらの精液でAIを行った結果、受胎率80%(4/5)、平均産子数9.75頭であった。

以上のことから、今回開発した希釈液は既存の中温保存用希釈液に対しても遜色無く、実用価値が高いものと推察される。